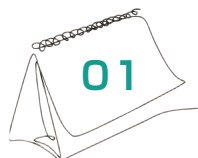




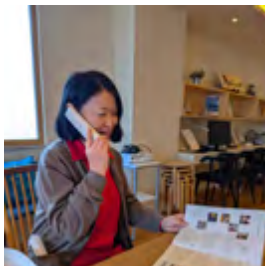
がんとむきあい、その人らしく、共にいる場。

がんとむきあう会の活動は NPO 法人として 9 年目を迎えました。

この 1 年の活動をありがたい気持ちを添えて報告します。



がんとむきあう会のゝ相談、活動

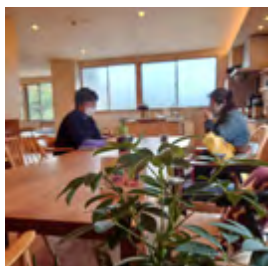


今年度も
いろいろな相談の
ゝ声、が
届きました。



元ちゃんハウスには相談に訪れる人の数だけ相談の種類があります。同じ人でもその時々状況や状態で内容も異なります。むきあう相談もあればおしゃべりの延長の相談もあります。対面はもちろん、電話やメール、オンラインの相談もあります。その一つひとつが、その人にとって本当に切実であるからこそ、それを大切に、しっかりとむきあっています。

※ご紹介するエピソードは実際にあった相談を元にして編集・加工したものです。



いつでもつながれる安心が
その人を支えていく…

5年前のその日、その方は玄関脇の観葉植物の影からこっそりとこちらを伺っていました。元ちゃんハウスのピアサポーターとその方のでした。たとえ早期の胃がんであっても再発するかもしれない…、拭い去れない不安に急き立てられるように訪れたのでした。コミュニケーションが少し苦手なその方はずっと同じピアサポーターに折々の不安を打ち明けながら治療を続けてきました。時間外の電話の相談も何度もありました。しだいに相談の間隔が開くようになりちょうど5年が経った頃、その方は来られなくなりました。再発の不安にかられた5年間で、ピアサポーターと共に歩んだ方でした。



ゝ共に、ある「交流会」

相談はひとりであるとは限りません。がんを抱えた人が同じ悩みや問題を持った人とつながる。がんに関する正しい知識や考え方を学ぶ。交流は誰もが当事者として「共にある」ことを大切にしながら、みんながみんなで助け合うことで、その人が孤立や孤独に陥ることを予防しています。



がんとむきあうからこそ
プラスとマイナスの気持ちを受け止める…



突然のがんの宣告はその人の人生に切実な影響を与えます。がんの治療のために休暇をとっているその方は「がんになったからといってゝ悪い、ことばかり考えるのは嫌です。今しかできないことを見つけ出してそれに取り組んでみたい」と言い、「がんになった自分を嫌いになりたくない」と力強く語ります。抗がん剤の治療の合間に体調と相談をしながらようこそプログラムに参加するゝがんばりやさん。ですが、ときにはがんばりすぎないでとお声がけします。その方の笑顔の下に閉じ込めた不安や悩みにもしっかりと心を寄せたいと思います。

がんにともに生きる人たちの、これまでに寄り添い、
いまをいっしょに、これからを支える…。



大きな悲しみからの立ち直り ブレても、戻っても、その人なりに…

人は大きな悲しみに直面し、立ち直り、一歩踏み出すまでには、その人それぞれの時間が必要です。大切な伴侶をがんで亡くされたその方は、ようこそプログラムや遺族を対象にした「もくれんの会」などに参加されていました。日常を取り戻しつつありましたが、ある朝、突然に電話がありました。「なぜだか今日はとても悲しいのです。一人ではいたくありません。いまから行ってもいいですか?」。泣き顔でその方は入ってこられました。ゆっくりと、ただゆっくりとお話を聴きました。ブレても良いのです。

気持ちが収まるまで その人の時間に寄り添う…

「頭では理解できていても気持ちがついてこない…」、がんを抱えた方が治療のさまざまな局面で直面することのひとつです。その方は乳がんの手術の方法で迷っていました。選択肢の長所と短所は理解しています。でも、期限の診察日までに気持ちを整理して決めることはできません。決められない気持ちをそのまま主治医に伝えることにしました。元ちゃんハウスの先輩、の手術を経験した方の話も聞きました。しっかりと気持ちが収まるまで考え抜いて、自分で選んで決めました。その方からは退院できたと笑顔の報告がありました。



がんを抱えた被災者の こころの拠り所に…

2024年元日の能登半島地震の被災者のなかにはがんに影響を受ける方も多数いらっしゃいます。その方は伴侶をがんで亡くされ、自身もがんの治療中ですが、いまは状態が落ち着いています。大切な思い出の詰まった能登のご自宅には住むことができず、金沢近郊に転居してあたらしい生活を始めています。元ちゃんハウスは病院に置いてあったパンフレットを見て訪れました。特にこれといった相談があるわけではありません。故郷に咲く花や木を持ってきてくださったり、同郷のスタッフと昔話をしたりして時間を過ごします。元ちゃんハウスがその人のほっとできる場になっています。

2024.4 ~ 2025.2 データ

243 日

887 名

721 名

月 火 水

木 金 土

第1

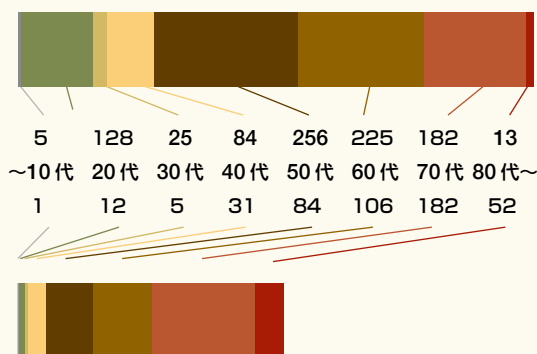


2024年4月から2025年2月までの11か月に243日を開館し、がんに影響を受ける人887名、医療従事者721名の利用がありました。

[利用者計=来訪+オンライン+電話=1608名]

【利用者の属性】

女性 918名



男性 473名

背景



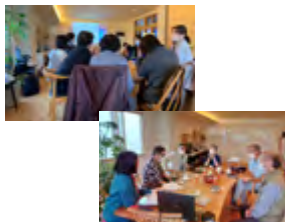
利用





がんの当事者は
がん患者やその
家族だけではない!

「がん」という言葉に関心を持ちながらも、がっぱ会議の参加となると躊躇する事態に直面しました。それでも多様な背景の方が参加してくれました。がんを抱えた従業員や就労、家族など、それぞれが、それぞれにがんとの「接点」があること、地域の人たちもがんの当事者であることに気づきました。



がんに影響を受ける人たちを対象に、地域での活動や就労など社会参加における課題や悩み、希望などを共有し、協働してまちづくりに取り組む体制を構築していきました。個別のミーティングを全体の会議につなげたり、無記名のアンケートを取ったりなど、発言や参加に抵抗を抱く人たちの声を一人でも多く集めることに尽力しました。

4月
~

「地域連携会議」

`地域の人と
つながる。



社会参加を実践する第一歩は
地域のなかで安心していることができる
`場、づくりであること!

がんに影響を受ける方の社会参加を考え、実践に結びつけることが目的でしたが、プログラムを推し進める中で気づき、たどり着いたのは「そもそもこの場が社会参加の一步ではないか」ということでした。がんに影響を受ける方にとって「自宅から外に出る」ことも、「その場の人たちと一緒にいる」ことも、「人と話すこと」も大切な社会参加の一步です。`ようこそ、カレッジがそうした人たちを受け入れる `場、としてあること、地域との接点であり、次への一步に結びつける `場、となることが大切なのだと思います。

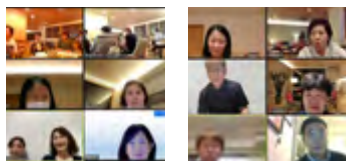
4月
~

「ようこそ
カレッジ」

`地域の人々と
つながる。



地域の人たちと協働してがんを抱えた人を支援するまちづくりの活動に取り組みました。まずは自分達がドアを開けて地域に出る、地域の人を迎え入れる…、会議の名称を金沢弁で「一生懸命になる」という意味の方言を用いて「がっぱ会議」としました。これまでのつながりの有無にかかわらず広く地域の人や団体に呼びかけました。



「当事者会議」

`社会参加の
一步を踏み出す。

4月
~



がん患者にとって
治療や療養と生活
や社会参加はつな
がっている!

「社会参加」という切り口に多くの人が `構えて、しまいました。就労やボランティアなど、社会参加のイメージが一人歩きし、「考えたり、望んだりしていない」と思われる方もいました。治療や療養と生活と社会参加はつながっていると気付かされました。

がんに影響を受ける人たちが、多様な場での活動や就労などで活躍できる社会参加を地域に促すために、がん患者や家族と地域の人たちが共に学び、必要な知識と実践の方法を身につけ、具体的な一步を踏み出すことを目的にしました。第1期はこれまでのプログラムをベースに4月から段階的に社会参加の下地となる「生活の充実」を目標にしたカリキュラムをスタートしました。第2期は9月から地域の人たちも対象に、より「社会参加」に踏み込んだ内容のカリキュラムをスタートしました。



‘ひと、と’ひと、がつながり、
いろいろな活動が生まれています…。



毎年、感謝の気持ちを込めて開催する誕生日のイベント。元ちゃんハウスを支えてくれる人が、みんなで集い、この日だけの「おやき」を食べて、ゲストの話を聞いて、おしゃべりをして、お腹も、頭も、気持ちもいっぱいになって、笑顔になる、そんな1日です。そして、スタッフ一同が初心に戻る日であり、思いを新たに、次の年へと一歩踏み出す、スタートの日でもあります。



元ちゃんハウスの ‘外、
地域の場で新たな人との
つながりをつくる！

「自分にとっての社会参加」をテーマにがんの当事者や連携する団体・企業の講演や体験、出展を行いました。参加者にとって、社会とのつながりを再確認し一歩を踏み出す転機となるだけでなく、地域社会の一員として活躍する重要な機会となりました。元ちゃんハウスから ‘飛び出して、開催したことで、社会参加を求めながらも様々な理由で元ちゃんハウスに来られない人々と出会い、新たなつながりを創出することの必要性が明らかになりました。



今年度の活動の成果を広く発信し、次年度からの活動につなげることを目的に、石川県立図書館だんだん広場で成果報告とプレス発表会を兼ねた交流会を開催しました。興味を持ってくれた市民が「参加」してくれることを目標に来年のキーワード選挙やアーティストによるパフォーマンスなどに取り組みました。催しものスタイルにすることで新たな市民の層へのアピールを試みました。

1月～

「文化祭」
‘市民との交流と
社会参加、



「8周年イベント」
‘感謝と初心、

12月



がん患者に必要な
のは安心できる場
—心理的安全性が
ある場所！

今年は天野慎介さんと多和田奈津子さんのご夫妻の講演でした。元ちゃんハウスという ‘場、の持つ役割と意義を改めて考えました。



石川県立図書館だんだん広場及び元ちゃんハウスで、ふだんの元ちゃんハウスでの活動の成果を具体的なカタチとして、広く市民に発表する ‘文化祭、を開催しました。‘ようこそ、カレッジのカリキュラムの取り組みやその成果、活動でつながった団体の発表や地域の支援団体の出店など、文化祭ならではの賑わいと楽しさで、幅広い市民の人たちに「がん」という切り口で活動を紹介しました。参加者にとっては貴重な社会参加の1日となりました。



「交流会」

‘発見、から
‘いしかわ、へ

3月



いろいろな切り口
で「がん」のイ
メージを変えるこ
との大切さ！

令和6年度のキーワード「発見」を引き継ぐ、令和7年度のキーワードは僅差で「いしかわ」に決まりました。



2024 年度
賛助会員・
寄付 実績

2024 年度（2024 年 4 月から 2025 年2月）の正会員・賛助会員、寄付の実績をお知らせします。

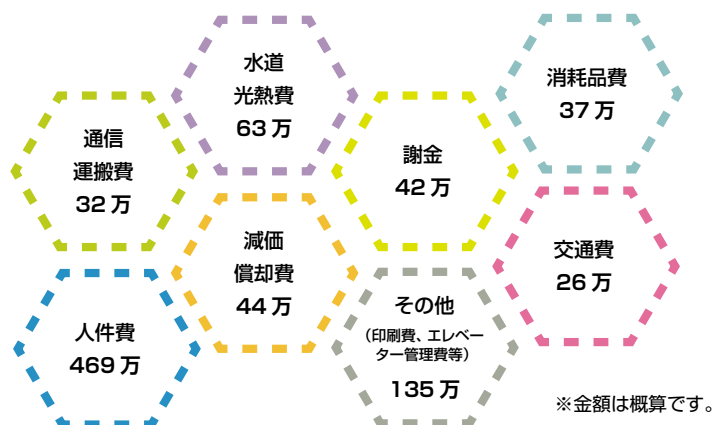
賛助会員

個人	85 名	年会費収入	1,010,000 円（1 万円／口）
団体	5 団体	年会費収入	300,000 円（5 万円／口）
寄付	99 件	寄付収入	3,901,200 円
総計	2025 年2月末日		5,211,200 円

※がんとむきあう会の事業報告書等は毎事業年度の3ヶ月以内に所轄庁である石川県に提出しています。これらの情報は「内閣府 NPO ホームページ（<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/>）」でご覧いただけます。

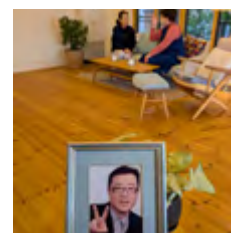
元ちゃんハウスの活動はみなさまからの寄付と会費で運営されています。

2023 年度は、
元ちゃんハウスの運営に
約 848 万円かかりました。



2025 年度
活動予定

がんとともに生きるすべての人たちに寄り添う…、がんとむきあう会の活動はだれもが、いつでも、無料で利用できる常設の相談の場の開設を基本に、地域での場づくりや、医療者との交流、がんの正しい知識の啓発など、内容を充実し、新たな切り口にもチャレンジしながら、多くのみなさまからのご支援のもとで活動をしていきます。



■ 相談活動

月～金・第一土曜の 11:00～16:00、これからも日々、元ちゃんハウスの扉を開けていきます。訪れた人が気ままに話したり、気持ちを吐き出したり、誰かとつながったり、相談をしたり…。がんとともに生きるお一人お一人と一緒に過ごす時間は、これからも大切にしたい元ちゃんハウスの日常です。プログラムなど他の事業も、患者さんらと一緒に過ごす時間から生まれた問いや思いを原点に展開していきます。

■ 元ちゃんハウスから全国へ！

来年度は、これまでにつながった全国の仲間とスクラムを組むために、「いしかわ」の元ちゃんハウスから全国へ航海に出航します！これまで、「元ちゃんハウスのような場を作りたい。」という思いを抱く多くの方々が見学に来てくださいました。そんな方々のもとへ出向き、場の立ち上げや運営の支援をします。みなさまのおかげで8年間積み重ねることができた元ちゃんハウスの活動で学んだことを全国の仲間へ届けます。

■ がんの啓発活動

これまで医療系やがん患者支援の組織からの依頼が多かった講演。最近は身近な地域の団体や、管理栄養士が活躍する元ちゃんハウスならではの「食」に関する依頼をいただくことが増えています。元ちゃんハウスでの活動を伝えることは、がんとともに生きる方々の思いを伝えることと同じだと思っています。地域での講演活動を通じてがんをより身近に受け止めてもらうことで、がんと共に生きる社会の構築に寄与します。

‘これまで、と‘これから、
元ちゃんハウスからのメッセージです…。



みなさまのご支援で
元ちゃんハウス 2 階を改修しました。
ありがとうございました。



元ちゃんハウスは、越屋メディカルケア株式会社の4階建ての旧社屋を無償でお借りしております。未改修だった2階を外階段から直接アクセスできる特徴を活かして、がんとともに生きる方々がより主体的に、そして多目的に活動できる場とするために改修しました。「元ちゃんハウス アート部」のアドバイスを受けてギャラリーにも使うことができる空間にしました。アート展に来たついでに病気のことを話したり、少しでもがんであることを考えないですむ時間を過ごしたり、アートの空間に身を置いていたら少しはパワー充電できるかもしれません。そんな空間を「ギャラリーケアリング」と名付けました。今年度はがん共生まちづくりの事業として、医療だけのアプローチではなく生活のアプローチを大切にしてきました。ヨガや、カフェや、ギャラリーケアリング。元ちゃんハウスの2階は、がんとともに生きる方々にとって、そのときどきの場とつながりがあるはずです。



「発見」から「いしかわ」へ、一步を踏み出します！

来年度のキーワード「いしかわ」に思いを馳せ、全身を使って確固たる意思をチームワークで表現しました！

左から



任田和子



西村詠子



米森直子



櫻井千佳

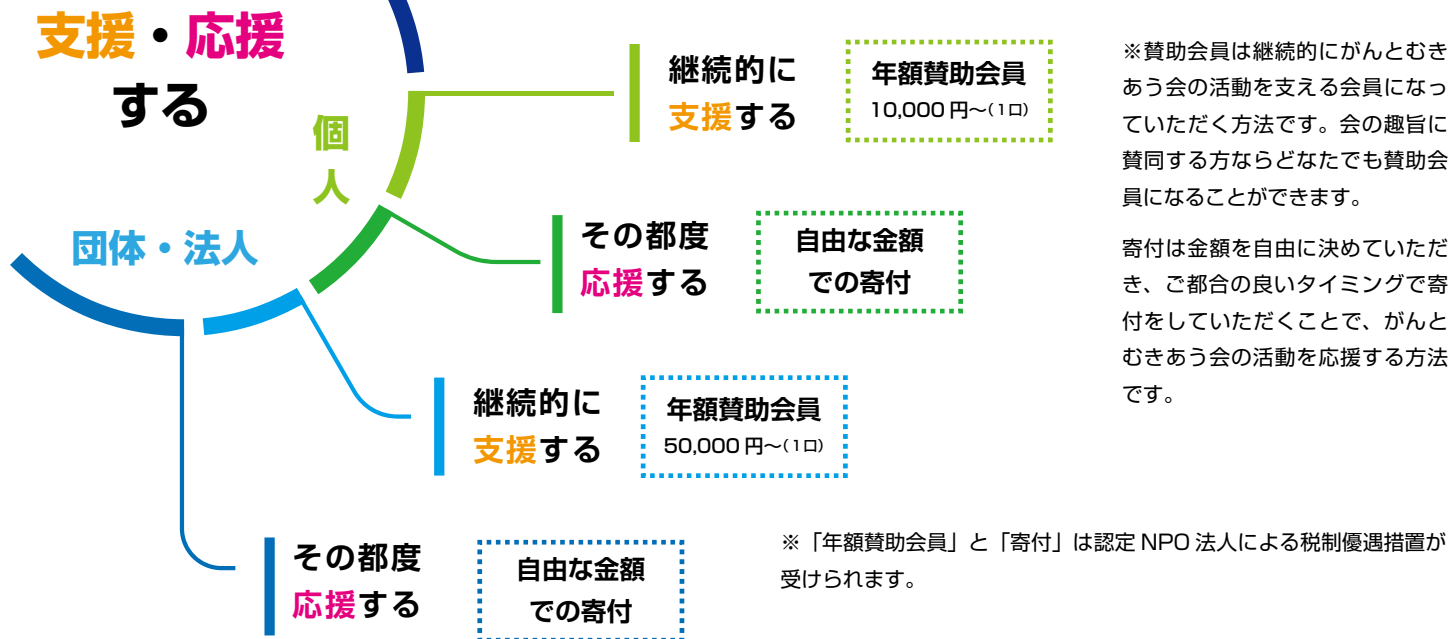
いつも変わらぬご支援をいただきましてありがとうございます。今年度は社会福祉振興助成事業の助成をいただき「がん患者とその家族が参画する金沢がん共生まちづくり3.0」事業を実施することができました。これまでのみなさまからいただいた賛助による事業があったからこそと心より御礼申し上げます。助成事業はがんを抱えた人が活躍できる地域づくりを目標にこれまでの活動を発展させるかたちで取り組みました。2階の改装ではギャラリーケアリングの作品展を観て笑顔で帰って行かれる患者さんの姿にアートの力を感じると共に、生活からのアプローチの大切さを感じています。本年度の事業を通じて医療だけではなく多方面のつながりの大切さを再認識しました。次年度は今年度の学びや気づきを持って全国で同じ志で活動している方々とのつながりをつくっていきます。元ちゃんハウスのような場所が全国津々浦々にあり初めてその必要性が認められると語っていた前理事長の願いを叶えるための一步を“いしかわ”から踏み出します。どうぞ応援してください。そしてご支援くださいますようお願い申し上げます。

がんとむきあう会 理事長 西村詠子

みなさまからの賛助会費と寄付があるからこそ、

がんに影響を受ける人は「無料」で元ちゃんハウスを利用することができます。

がんに影響を受ける人を支えるためにみなさまからのご支援が必要です。



安心・安全・便利なオンライン・サービスがご利用いただけます！

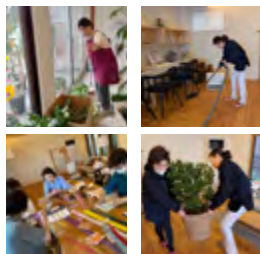
がんとむきあう会では寄付・会費決済サービス「Congrant」のオンラインサービスを導入しています。オンラインでクレジットカード決済や銀行振込がご利用いただけます。申し込み時の情報はCongrant社のセキュアな環境でやり取りされます。



<https://congrant.com/project/genchanhouse/7690>

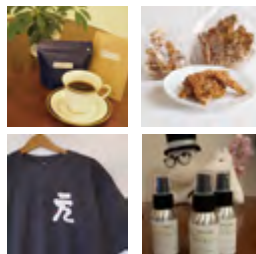
いろいろある!ご支援のかたち

ボランティア (モノ・コト) で支援する!



毎日の掃除やお花の取り替えやお茶の準備、外回りの清掃や時には雪かき、認定 NPO としての事務業務…、元ちゃんハウスに利用者さんを気持ちよく迎えるためには目に見えない仕事がいっぱいあります。そんなちょっとしたモノやコトを気持ちよく引き受けたり、手伝ってくれるボランティアのみなさんを募集しています。

オリジナルグッズを購入して支援する!



がんとむきあう会ではオリジナルグッズの製作と販売を行なっています。金沢ならではの素材や製法を活かした食品やオリジナルのコーヒー、アロマオイル、素材やデザインを吟味したタオルやバッグ、T シャツなどいろいろです。ぜひお買い求めください。売上金の一部は運営費となります。

認定特定非営利活動法人 **がんとむきあう会**

〒 920-0935

石川県金沢市石引4-4-10 越屋メディカルケアビル

TEL : 076-232-5566 / FAX : 076-254-1248

MAIL : info@genchanhouse.com

ホームページ

元ちゃんハウス : <https://genchanhouse.com>

法人 : <https://gmkn.or.jp>

facebook : <https://www.facebook.com/gmk20>

**メルマガ
配信中です!**

